



# 福島県関係各課の紹介

## 農村計画課

課長 須田 博行



当課は、農村計画担当、調査計画担当、土地改良法担当の3チームで構成されています。課員は16名で、農村整備総室全体の取りまとめを含め農業農村整備事業に関する様々な業務を担当しています。

主な業務は、総室予算の取りまとめ・調整、広報活動、国土調査事業、新規地区の調査計画、東日本大震災復興整備計画、土地改良事業法手続き、土地改良団体の検査・指導、総室庶務・会計事務など多岐に渡っています。

東日本大震災からの早期の復興・復興に向け仕事中は常に緊張感が漂っていますが、難しい仕事や困ったことはお互い協力しながら取り組んでいます。

これからも課員一丸となってチームワークで頑張りますので皆様のご支援ご協力をお願いします。

## 農村振興課

課長 森口 康弘

当課は、事務職3名、農業職3名、農業土木職5名の混成3チームで構成され、中山間地域など農山村の振興に向けて、ハード・ソフトの両面にわたる業務に取り組みんでいます。

まず「農地活用担当」は、本県の耕作放棄地の解消に向けて、法に基づく指導・助言や荒廃状況の把握するための調査、農地への再生支援のほか、震災で被災した農家の皆さんが故郷への帰還までの間、避難先で耕作放棄地を活用した営農再開の支援

などを担当しています。

また「農村集落担当」は、中山間地域がもつ多面的機能を維持し、地域の農業生産活動を守るための直接支払事業や、子供たちにも農業・農村の魅力を知ってもらおう「農育」などを担当しています。

さらに「農村活性化担当」は、農山村の活性化につながる農業基盤や交流施設等の整備に対する支援のほか、農地・水路等を地域ぐるみで保全する農地・水保全管理支払事業などを担当しています。

## トピックス

### ○第11回成果発表会を開催

平成25年8月2日に福島県農業総合センター多目的ホールにおいて、第11回目となる農業農村整備事業成果発表会を開催し、県、市町村、土地改良区などの関係者約130名が参加しました。この発表会は、農業農村整備事業を取り巻く情勢の変化に対応した技術力の蓄積を図るために、東日本大震災の影響で中止した平成23年度を除き、平成14年度より毎年開催しています。

はじめに、(独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所の後藤真宏上席研究員による「農業用水利施設への小水力発電の導入」についての特別講演が行われました。

続いて、「福耕支援隊レポート」として、愛媛県より相双農林事務所への派遣2年目を迎えた平野貴司氏より、支援業務の内容や復旧状況の報告、さらに愛媛県の紹介もありました。最後に「福島県を一人ぼっちにはさせません。全国から応援します。」との力強いメッセージもいただきました。

その後に行われた成果発表では、ため池の放射性物質拡散防止に関する事例や災害復旧、農地・水保全管理支払交付金の取組等、幅広い分野の14件について、成果が報告されました。さらに、各発表後は、意見交換が活発に行われ、参加した関係者の関心の高さがうかがえました。

この発表会は、農業農村整備の関係者が、県内共通の課題などに関する知識を習得するとともに、様々な取組を関係機関全体の情報として共有し、業務に活かしていくための有益な機会であるため、今後も継続して開催していく予定です。

組等、幅広い分野の14件について、成果が報告されました。さらに、各発表後は、意見交換が活発に行われ、参加した関係者の関心の高さがうかがえました。

この発表会は、農業農村整備の関係者が、県内共通の課題などに関する知識を習得するとともに、様々な取組を関係機関全体の情報として共有し、業務に活かしていくための有益な機会であるため、今後も継続して開催していく予定です。

また「農村集落担当」は、中山間地域がもつ多面的機能を維持し、地域の農業生産活動を守るための直接支払事業や、子供たちにも農業・農村の魅力を知ってもらおう「農育」などを担当しています。

さらに「農村活性化担当」は、農山村の活性化につながる農業基盤や交流施設等の整備に対する支援のほか、農地・水路等を地域ぐるみで保全する農地・水保全管理支払事業などを担当しています。

9月3日から5日にかけて東京農業大学世田谷キャンパスで開催された農業農村工学学会全国大会の「東日本大震災からの復興に関する展示会」に福島県も出展しました。

展示会には、福島県の農業農村の被害やその後の復旧状況、福耕支援隊の取組などのパネル20枚を展示しました。全国から大会に参加した学会員の皆様からは、本県の津波・地震被害への驚きの声や復旧の進捗状況などへの質問などが寄せられました。

また、10月2日から4日まで、福島市の「コラッセふくしま」1階アトリウムにおいて、パネル展

「農空間 復旧への歩み」パネルを展示

「農村計画課」

「農空間」とは、農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間のことです。

【農村振興課】

○災害復旧を現地学ぶ

8月8日に東京農業大学水利施設工学研究室(竹内教授、岡澤准教授)の学生14名が、被災地の現状に関する現地研修に訪れました。

相双農林事務所と南相馬市の職員が、太平洋沿岸部の農地や海岸、排水機場の復旧状況、南相馬ソーラーパークの説明をしました。

研修後に、メッセージが届きましたので、紹介します。

「来ないと分からないことがたくさんありました。」

「元気あふれる福島県に戻ると信じています。」

大分県農山漁村・担い手支援課企業参入班参事の磯田健(イソダケン)氏の基調講演では、平成19年から6年間で158件の企業の新規参入のあった大分県の事例が紹介されました。

また、同県の参入する企業への手厚いサポートについての話もあり、担い手不足が懸念される地域農業の再生の手法として、企業の経営力を活用しつつ、ニーズに対応する中で、耕作放棄地の再生・利用を進めていることなど、本県の耕作放棄地対策を進めるうえでも、大変参考となる内容でした。

【農村振興課】

「農空間」とは、農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間のことです。

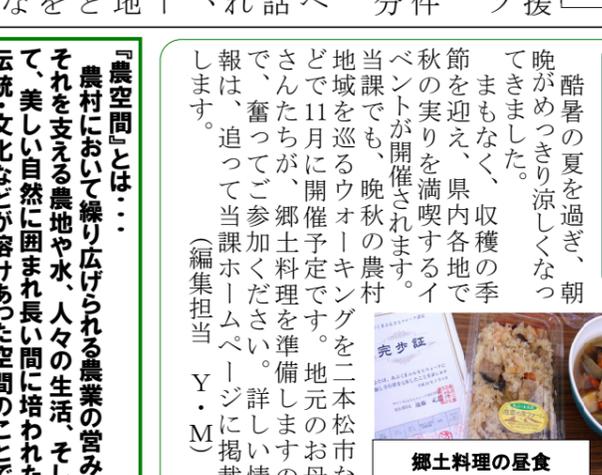
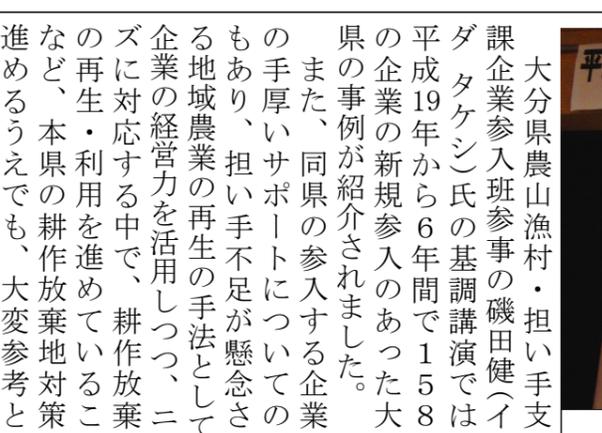
【農村振興課】

「農空間」とは、農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間のことです。

【農村振興課】

「農空間」とは、農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間のことです。

【農村振興課】



農村振興課の皆さん

会場中が感動した平野氏のレポート

福耕支援隊も紹介したパネル展

磯田氏の基調講演

熱心に説明を聞く学生達